

平成29年度村政懇談会

各地区での主なやりとり内容を紹介します！



6月28日から7月7日にかけて、東海村自治会連合会と村との共催による村政懇談会が、各コミュニティセンターで開催されました。村政懇談会では、山田村長から、今年度の村政運営の基本方針等について説明がされた後、各地区から事前に提出された質問や要望に対する回答、参加者による自由質問が行われました。

各地区で行われた懇談の内容（一部抜粋）については、本号と次号で、前編と後編に分けてご紹介いたします。なお、詳細は村公式ホームページに掲載の議事録をご覧ください。

■問い合わせ 自治推進課自治推進担当（☎282局1711 内線1461）

【村長による村政について】

これから村が目指す方向を示した村政運営の6つの基本方針等についての説明がありました。詳細は、「広報とうかい」平成29年4月10日号をご覧ください。

石神地区

期日 ▼ 6月28日
場所 ▼ 石神コミュニティセンター
参加者 ▼ 115人

石神城址公園の除染土壌について

事前質問▼東日本大震災から年数が経つ。放射線量の測定は毎年行っているのか。また、このような場所は村内に何か所あり、何か対策は考えているのか。
村民生活部長▼放射線量の測定は毎年実施している。除染土壌は村内に6か所ある。

村長▼除染土壌をどのようにすれば動かせるのかを国に確認しているところである。実際に、村と環境省の担当者との間では、やり取りもしている。どのような形で安全に動かせるかについては、もう少し時間をいただきたい。

久慈川の防災対策について

事前質問▼冠水しない道路を整備していただきたい。先日、竹瓦区で避難訓練を実施した。安心サポーターは要支援者宅を廻り、状況を確認した上で避難を開始することになっている。実際に

津波で浸水したらどうするのか。早急に検討をお願いしたい。

村長▼防災対策は大事である。以前、避難タワーのような話もあり、一時的にでも高台へ行けるようなことも考えている。道路のかさ上げには時間がかかるが、手段はいろいろあると思う。いずれにせよ、人の命に関わることなので、早急にやりたい。



自治会の在り方について

石神区住民▼自治会には地区自治会と単位自治会があり、一時は、まちづくり協議会という話もあった。今後、高齢化が進む中で、自治会の在り方について話を伺いたい。

村長▼今は何とかできていても、5年後、10年後に地域のコミュニティが維持されて、社会的機能を健全に保たれるためには、今から皆さんと一緒に考える時期にきている。

村松地区

期日▼6月29日
場所▼村松コミュニティセンター
参加者▼108人

国道245号の拡幅工事等について

照沼区住民▼拡幅工事が進んでいるが、久慈大橋を改修しないと渋滞は解消されない。同様に国道6号も村内だけが完成しておらず、早急な対応をお願いしたい。



建設農政部長▼国道245号の工事は進捗率74パーセントで、現在は事業区間3.9キロメートルの用地取得を進めている。今後も茨城県と一緒に交渉を進め、平成32年度の完成を目指したい。また、国道6号は国の直轄となる。要望をしているが、なかなか進まない状況である。どのようになれば事業化につながるかを今年度も研究していきたい。



照沼小学校の特認校制度について

照沼区住民▼照沼小学校の地域の子どもの数は昔の3分の1程度になっている。通学路を通る子どもたちの後ろ姿を見るのが楽しみである。私たちに何かできることはないかと考えている。

教育長▼児童数が増えるのが一番良いが、来年度から照沼小学校は小規模特認校に取り組みたいと思う。英語教育など特色ある教育を取り入れていきたい。また、照沼小学校の一番の特色は、地域で一緒に活動すること。村内の小学校では唯一、川の清掃や鮭の放流、米作りなどを行っている。これからは、開かれた学校から地域とともにある学校ということで、学校も地域と一緒に活動して地域を活性化する役割を担う立場にある。地域に関わり、このような取り組みによって子どもたちが増え、定住につながっていくと思う。ご協力をお願いしたい。

真崎地区

期日▼6月30日
場所▼真崎コミュニティセンター
参加者▼126人

村松地区周辺地域活性化計画について

真崎区住民▼村の未来のための「(仮称)村松地区周辺地域活性化計画」を絵に描いた餅にしなすために、村の「公共施設等総合管理計画」に取り入れ、計画的に実施する方針としていた

村長▼国道245号の拡幅に合わせる村松地区の周辺一体を整備したいという思いがある。道路が拡幅されると便利にはなるが、通過するだけの道路では意味がない。国営ひたち海浜公園には多くの人が来る。そのうち1割でも村に寄ってほしいが、滞留する施設がない。地域に人が来て活性化につながるためには施設などのハード整備が必要であり、計画に盛り込まなければいけないと思う。



村の公共交通について

真崎区住民▼高齢者は運転免許証を返納することもあるが、村の公共交通を不便に感じる。家から公共交通機関までは坂道があり高齢者には厳しい。また、デマンドタクシーもあるが予約が取りづらく、行きよりも帰りが困っている。

村長公室長▼現在、村内の主な公共交通は、路線バスとデマンドタクシーがある。路線バスは3路線で運行しているが、地域に路線がない人には使いづらい。それを補うためにドア・トゥ・ドアのデマンドタクシーを運行している。デマンドタクシーは、行きも帰りも予約すれば対応が可能である。路線バスの利用者数は昨年よりも1万人増えた。一方、デマンドタクシーの利用は減少傾向のため予約も取りやすくなってきた。申し込み方法が難しいというご意見もあるので、今後、注意しながら対応していきたい。